

人間文化研究機構

国立歴史民俗博物館へのご寄附について

歴博サポートの お願い

歴史研究から未来を拓く

「歴博」の愛称で親しまれる国立歴史民俗博物館は、1981(昭和56)年に設置された、日本の歴史と文化に関する国際的・学際的な研究拠点です。研究機関(大学共同利用機関)でありながら、研究成果を可視化し、社会に発信することで研究の高度化を図るため、博物館の形態をとっています。

千葉県佐倉市の緑豊かな佐倉城址に建つ歴博は延べ床面積35,000㎡という壮大な規模を有し、旧石器時代から現代までの日本の歴史と文化について約1万点におよぶ資料でわかりやすく展示する、国立としては唯一の歴史博物館です。

皆様からのご寄附を 歴博の各種事業の推進に活用いたします。

わたしたちは、「歴史から未来を切り拓くための知恵を学ぶとともに、歴史認識が異なる人びととの相互理解の実現に寄与すること」を最大のミッションにしています。

新型コロナウイルス感染症はまだ終息の気配をみせません。今、歴博に求められているのは、歴博のミッションに沿って、再度、人類の歴史活動のなかでの自分たちの立ち位置を見直しながら、「人類の歴史を広い視野でみる力」や「異質な世界観や価値観をもつ他者に対する共感力」をみなさんと一緒に養いつつ、このような「力」をもつ次世代を、育てていくことだと考えています。

歴博のさまざまな活動をより広く力強く持続的に押し進め、ミッションを達成するには、みなさまからのご支援、お力添えがなにより糧になります。

歴博でのご寄附につきましては、なにとぞみなさまのご理解とご協力を賜りたく、心からお願い申し上げます。



国立歴史民俗博物館長
西谷 大

【異分野を横断する研究】

主な成果

炭素14年代法により弥生土器に付着していたススの年代を測定し、日本の水田稲作の開始が従来の説より約500年さかのぼることをつきとめました。

- 現在は…
- 人骨出土例による縄文社会論の考古学・人類学・年代学的再検討
 - 近世日本における彩色の技法と材料の受容と変遷に関する研究 などを推進中



年代を測定した福岡市雀居遺跡出土の弥生土器(写真提供：福岡市教育委員会)



分析のための炭素を取り出す真空装置(歴博の総合研究棟・年代実験室)

歴史をきわめる



シーボルト子孫宅(ドイツ・シュルヒテルン)での資料調査



【国際的連携による研究】

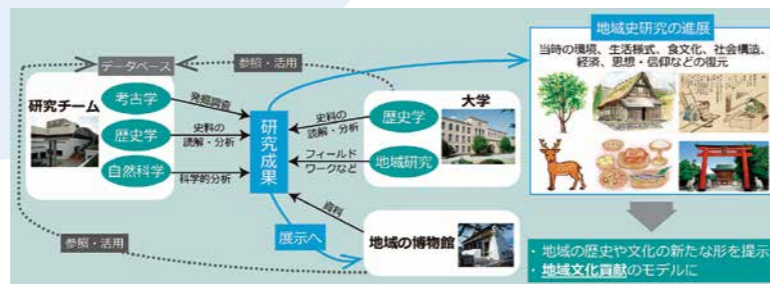
主な成果

ドイツにあるシーボルトの子孫宅で、伊能忠敬の測量による日本地図の写しを発見し、日本の正確な姿が19世紀のヨーロッパに伝えられた経緯が明らかになりました。

- 現在は…
- ヨーロッパにおける19世紀日本関連資料の調査と活用
 - 日本文化発信に向けた国際連携のモデル構築をめざして—
 - などを推進中

【新たな学問 総合資料学の創成】

新たな日本史像を構築するため、多様なモノ資料を、分野を超えた視点から統合的に分析する学問領域の創成に取り組んでいます。



総合資料学 研究成果の社会的活用ワークショップ

【日本の歴史資料の継承・保存】

8世紀の貴重な史料を後世に伝えるため、正倉院宝物の一部である正倉院文書の複製事業を行っているほか、庫外に伝存する文書の収集にも力を入れています。



正倉院文書の複製製作(写真提供：株式会社 便利堂)

歴史をまもる



気仙沼市での文化財レスキュー

【地域の歴史の再生・再発見】

全国の歴史民俗系博物館のネットワーク「歴民協」を立ち上げ、地域資料の活用や被災地支援の体制づくりを進めています。

歴史をひらく

【研究の成果を世に問う企画展示】

- 大ニセモノ博覧会—贋造と模倣の文化史—(2015年3月)
時代や社会背景によって様々に変化する「ニセモノ」と「ホンモノ」の複雑な関係を明らかにしました。
- よみがえれ！シーボルトの日本博物館(2016年7月)
ドイツの博物館が所蔵するシーボルトのコレクションから、彼がヨーロッパで企画した日本展示を再現しました。



ホンモノ？の人魚のミイラを展示した「大ニセモノ博覧会」



シーボルト没後150年の里帰り「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」

■これまでのご寄附の使いみち

- 企画展示「ドイツと日本を結ぶもの—一日独修好150年の歴史—」(2015年7月)
国内の資料運搬、内覧会イベントの開催、ドイツ・オーストリアからの資料所蔵者の招聘など



- 企画展示「文字がつなぐ—古代の日本列島と朝鮮半島—」(2014年10月)
韓国からの資料運搬など



- 全国歴史民俗系博物館協議会の事務運営への活用
- 博物館施設の修繕・環境整備

ご寄附の流れ

- 1 申込用紙のご提出**
ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。
- 2 指定口座へのお振込み**
ご寄附受入れの確定後、振込依頼書を送付いたします。
- 3 特典等の送付**
ご入金の確認後、特典等を送付または実施いたします。

ご寄附の特典

【1万円～】

- 歴博オリジナルグッズを進呈
※写真とは異なる場合があります。
- サポーターカードを進呈
(ご寄附額に応じて無料入館等の優待が受けられます)



【5万円～】

- 1万円の特典に加えて、ご寄附の日から3年間、当館企画展示の内覧会にご招待
- ミュージアムショップとレストランでのご優待
- ご希望される方(個人)のご芳名を歴博館内に掲示



【10万円～】1・5万円の特典に加えて、

- 歴博からの感謝状及び記念品を進呈
- 歴史と文化への好奇心をひらく『REKIHAKU』を1年間進呈
- 歴博館長及び研究者との懇談会にご招待
- 希望される方(団体)のご芳名を歴博館内に掲示



【50万円～】1・5・10万円の特典に加えて、

- ご希望される団体のバナーを歴博公式サイトに掲示(50万円毎に掲示の日から1年間)

税制上のメリット

【法人様からのご寄附】

- 全額損金計算が可能です。
(平成16年3月財務省告示第178号)

【個人様からのご寄附】(寄附金控除)


- 所得税…寄附金額(総所得金額の40%を上限とする)から2,000円を差し引いた額が、当該年の課税所得から控除されます。
- 個人住民税…お住まいの都道府県・市区町村が条例で人間文化研究機構を指定している場合、翌年の個人住民税額から控除されることがあります。
詳しくはお住まいの都道府県・市区町村にお問い合わせください。

※左の特典に加えて、

- 希望者は博物館公式ウェブサイト寄附関連ページに氏名を掲載
- ご寄附額に応じて歴博招待券を進呈
1万円～：2枚
10万円～：10枚
50万円～：50万円ごとに15枚



【お問い合わせ先】

 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
管理部総務課総務企画係



〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117
TEL : 043-486-0123 FAX : 043-486-4209
E-mail : syomu@ml.rekihaku.ac.jp
<http://www.rekihaku.ac.jp/>